

地域福祉推進のための指標づくり報告書
～ 立川市第4次地域福祉計画 策定に向けて ～
第5次立川あいあいプラン21

立川市地域福祉推進委員会

第4次立川あいあいプラン21推進検討委員会

はじめに

本委員会では、地域福祉推進のための指標づくりについて報告書を策定することができました。これもひとえに委員の皆さま、担当された事務局の皆さまのご尽力の賜物であり深く感謝申し上げます。

これまで地域福祉の推進に当たっては、行政、社会福祉協議会、自治会、民生委員・児童委員協議会、社会福祉法人、NPO 法人、ボランティアなどさまざまな団体が活動を展開しています。また、地域福祉を推進するに当たって、その Plan(計画)・Do(実行)・Check(評価)・Act(改善)により継続的な改善を図っていく必要がありますが、評価については量的な側面に重きを置く傾向がありました。

このたび量的な評価に加えて質的な側面ならびにそのプロセスを評価する指標を作成することができました。今後は指標が、地域福祉の一層の推進ならびに住みやすいまちづくりのために活用されることを願っています。

立川市地域福祉推進委員会

第4次立川あいあいプラン 21 推進検討委員会

副委員長 河合 晴夫

目 次

はじめに

1 指標の必要性と役割について・・・・・・・・・・・・・・・・ P1

2 地域福祉推進のための4つの要件・・・・・・・・・・・・ P2

3 評価の方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

4 具体的な指標例について・・・・・・・・・・・・・・・・ P4

5 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P17

- ・ 委員会の開催
- ・ 作業部会の開催
- ・ 委員名簿

1 指標の必要性と役割について

指標の必要性

地域福祉推進のためには、現状や課題、成果について分析し、具体的にわかりやすく伝えていく必要があります。そのためには「何をもって地域福祉が進んだといえるのか」を測るための指標が不可欠になります。

地域福祉推進の度合いは、「福祉活動への参加者数や参画団体数」「専門機関のネットワーク会議や研修の回数」など量的な視点から測られることが多いのが現状です。

しかし、本当に「地域福祉が推進されたのか」「住みやすいまちになったのか」を評価するには、量的な視点だけでは充分とは言えません。

事業本来の目的達成、住民の意識変化、住民の主体性の発揮度合いなど、すぐには結果として現れなかったり、数値化することが難しい事象も評価していくことが必要であり、量的な指標と組み合わせていくことが重要になります。

そこで、量的な評価と質的な評価の区別や、結果に結びつくまでのプロセスを評価していけるような指標が必要となります。

指標の役割

☆地域福祉推進をわかりやすく示す
地域福祉の推進状況を可視化する。

☆地域福祉の推進状況を分析する
地域福祉の推進状況をどう測り、評価するのか、その分析ツールとして活用する。

☆市民や関係団体・機関からの理解を促進する
地域福祉の目指す状況と、現在の推進状況をわかりやすく示すことで、理解と協力、参画を促す。

2 地域福祉推進のための4つの要件

本委員会では、誰もが住みやすいまちとは、どのようなまちなのか検討を重ね、取り組みテーマとして『孤立のないまち～つながりが増えて、広がったか～』と提示し、その実現のために必要な要件として、以下の4つを挙げました。

①地域に参加する人の裾野が広がったか

高齢、障害、児童などと対象を限定せず、多様な人が参加できる地域活動があり、人とのつながりや生きがい、やりがいを感じられる。

②多様な人が集まることのできる場が創出されたか

高齢、障害、児童などと対象を限定せず、多様な人が集まることのできる場所がある。

③地域福祉、地域活動の担い手（リーダーやコーディネーター）の発掘や支援ができたか

地域や社会のさまざまな課題解決に向けた市民活動を支援する基盤が整備され、たくさんの市民が自主的・自発的に地域活動に取り組んでいる。

④地域住民と関係機関の連携・協働は進んだか

フォーマルサービスとインフォーマルサポートが連動しており、必要に応じて連携できる体制が整っている。また、狭義の福祉領域だけで完結せず、関係諸領域が相互に連続性を保っている。

3 評価の方法について

数値目標の増減だけで、「多いほうが良く、少ない方が悪い」と、地域福祉の推進を評価することは困難です。複数の評価基準項目と指標に基づいた分析をし、最終的な評価を行うことが重要となります。評価については、地域住民と関係機関が共に取り組めるよう、推進委員会や新たに評価委員会などを設け、実施することが望ましいと考えられます。

■評価基準

①量的評価

予め定められた量的目標と、実績値をもとに4段階で評価。

A：計画通り、または計画を上回る実績をあげている

B：計画の60～100%未満の実績

C：計画の1～60%未満の実績

D：未実施

②質的评价

事業実施の結果どのくらい課題が解決されているか、また事業の対象者の満足度はどうかについて、文章表現で評価。

③プロセス評価

取り組みを通して住民参加や連携が進んでいるかについて文章表現で評価。

■評価後に整理すべきこと

①課題・問題点

計画どおりに進んでいる場合は、その要因は何か。進んでいない場合はその原因は何か。

②今後の方向性

課題・問題点に対し、どうすればより良く事業展開できるか、改善策はなにか。

4 具体的な指標例について

事業や活動を振り返り、今後の方針を検討していく際の指標例です。

地域福祉推進を測るための4つの要件それぞれについて、いくつかのプランを抜粋し、評価内容と着眼点及び評価ポイントを検討、整理しました。

①地域に参加する人の裾野が広がったか

指標例	評価内容	着眼点
支えあいサロン	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・支えあいサロンや団体の加入者数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・新規メンバーがどれくらい入ったか【参加者・活動の推移】 ・今までどこにもつながっていない人がつながったか【情報発信の工夫】 ・実働している人の数【参加者・活動の推移】 (名簿に掲載されているだけの人はいないか) ・継続して参加している人がどれくらいいるか【参加者・活動の推移】 ・退会した人の数【参加者・活動の推移】 ・1人の世話人だけでなく、メンバーが協力して開催する仕組みがあるか【活動支援】 ・サロンの種類が増えたか【テーマの多様性】 ・参加しやすい雰囲気があったか【満足度】 ・参加前後の変化【満足度】 ・今後、誰かを誘おうと思えたか【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃の相談活動や口コミで紹介した件数【情報発信の工夫】 ・関係機関との会合で、周知を行った回数【情報発信の工夫】 ・参加のきっかけを調査して、周知に活かされたか【情報発信の工夫】 ・参加することのメリットは周知できたか【情報発信の工夫】 ・活動の講師紹介や場所探しの支援を行った件数【活動支援】 ・活動する上でのフォローやサポート体制はあ

		<ul style="list-style-type: none"> あったか【活動支援】 ・支えあいサロン事業を充実させるために、世話人などに意見や提案をもらう機会があったか【活動支援】 【ネットワーク構築】 ・参加しなくなった人への働きかけはあったか【活動支援】
ちよこつとボランティア	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ちよこつとボランティア登録者数 ・ちよこつとボランティアの活動数 ・研修会などスキルアップの機会をつくった回数
	質的評価 (満足度調査)	<p><活動者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・実働している人数【参加者・活動の推移】 ・地域ごとの活動充実度を比べる【参加者・活動の推移】 ・登録者の満足度、活動前後の変化【満足度】 ・今までボランティアしたことない人がどれだけ登録したか【参加者・活動の推移】 <p><利用者></p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が登録者と利用する人をつなげることができているか【ネットワーク構築】 ・利用したい人のニーズが満たされているか、利用前後の変化【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ把握を行ったか【ニーズ把握】 ・登録者の強みや個性を把握してニーズにつなげているか【活動支援】 ・登録を促す多様なきっかけ作りを行ったか【情報発信の工夫】 ・登録者が活発に活動できるような工夫をしたか【活動支援】 ・登録者同士の交流会を開催したか【ネットワーク構築】

講座・啓発イベントの開催	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を掲載するネットページの閲覧数 ・普及、啓発講座の開催回数 ・普及、啓発講座の参加人数
	質的評価 (追跡調査・満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすい開催時間や場所の工夫はあったか【時間や場所の配慮】 ・ニーズ別、年代別の講座開催が出来ているか【テーマ・年齢の多様性】 ・受講者が講師になったり、新たな講座・活動への参加につながったか【活動支援】 ・自ら積極的に活動できるようになったか【満足度】 ・参加前後の変化【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数を増やす工夫はあったか【情報発信の工夫】 ・何を通して参加したのか分析して、広報に活かされたか【ニーズ把握】 ・受講生同士がつながる工夫はあったか【ネットワーク構築】 ・アンケート調査などが活かされたか【テーマの多様性】
地域での各種委員会・会議	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・開催回数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加しやすい開催時間や場所の工夫はあったか【時間や場所の配慮】 ・会議などの参加者割合【性別、障害の有無、職種など参加者の多様性】 ・発言しやすい工夫はあったか【参加者への配慮】 ・継続して参加できている人数【参加者・活動の推移】 ・参加前後の変化【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい進行や説明をする工夫はあったか【参加者への配慮】 ・つながりが生まれ、委員同士の交流や活動があったか【ネットワーク構築】

企業・社会福祉法人・NPOによる 社会貢献活動の広がり	量的評価	・社会貢献活動に参加した社員数
	質的評価 (満足度調査)	・社会貢献活動参加前後の社員の変化【満足度】 ・継続して活動している社員の人数【参加者・活動の推移】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	・社会貢献活動を始めるきっかけとなる広報ができていたか【情報発信の工夫】 ・参加しやすいプログラムは用意されていたか【テーマの多様性】 ・取り組みの具体的な事例が周知されたか【活動支援】

<評価ポイント>

- ◆支えあいサロン活動は、身近な居場所として大きな役割を果たしています。新規サロンの開拓はもちろん、既存サロンの活動強化・安定化につながる体制づくりが必要です。
- ◆啓発イベントや講座は、参加者の意識変化の追跡調査・満足度調査が求められます。
- ◆委員会や会議は、参加者にとって検討する内容が分かりやすく、あわせて参加の意義を感じられる進め方が必要となります。
- ◆開催にあたっては、集まりやすい場所・時間なのか、バリアフリーに対応しているか、高齢者、障害者、子どもや外国人など、さまざまな立場の人が参加しやすい配慮が必要です。
- ◆社会貢献活動に携わる社員が地域活動へ参加することで、参加者の裾野の広がりが期待できます。

②多様な人が集まることのできる場が創出されたか

指標例	評価内容	着眼点
支えあいサロン	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・支えあいサロンの数 ・支えあいサロンの立ち上がった数、解散した数 ・サロン交流会の開催
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なテーマ、年齢の団体があるか【テーマ・年齢の多様性】 ・継続している団体数【参加者・活動の推移】 ・参加者の満足度【満足度】 ・参加しやすい場所で開催されているか【場所の配慮】 ・サロン主催者への支援が充分に行き届いているか【活動支援】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・必要としている人に情報が届いているか【情報発信の工夫】 ・登録のメリットを周知できているか【情報発信の工夫】 ・立ち上げや解散の理由を把握し活かしているか【活動支援】 ・助成など活動するための支援はあったか【活動支援】 ・数の増減を分析して、活かすことができたか【ニーズ把握】
市民活動センター登録団体	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センター登録団体の数 ・市民活動センター登録団体の立ち上がった数、解散した数 ・団体交流会の開催回数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なテーマ、年齢の団体があるか【テーマ・年齢の多様性】 ・登録団体同士がつながっているか【ネットワーク構築】 ・支援が充分に行き届いているか【満足度】

	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 登録のメリットを周知できているか【情報発信の工夫】 助成金など活動するための支援はあったか【活動支援】 立ち上げや解散の理由を把握し、新たな場の創出に活かしているか【ニーズ把握】
当事者団体の活動	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> 当事者（障害者、子育て世帯、外国人など）が集まる場の数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> 参加前後の変化【満足度】 立川市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちをつくる条例が理解されているか【情報発信の工夫】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 必要な人に情報が届く工夫はあったか【情報発信の工夫】 参加しやすい工夫はあったか【場所の配慮】 参加しやすい時間帯で開催していたか【時間の配慮】 新たなつながりが生まれたか【ネットワーク構築】
地域懇談会や啓発イベント・講座の開催	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> 地域懇談会の開催回数 地域懇談会のテーマ数 啓発イベント・講座の開催回数 啓発イベント・講座のテーマ数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> 対象に合わせたテーマ設定がなされているか【テーマの多様性】 多様なテーマを設定できたか【テーマの多様性】 参加者の満足度【満足度】 協働で活動を行った回数や連携団体数【ネットワーク構築】 継続して参加している人数【参加者・活動の推移】

	<p>プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集まりやすい場所（交通、駐車場）で開催していたか【場所の配慮】 ・参加できるハード面での環境は整っていたか【場所の配慮】 ・参加しづらい人をカバーする手段を用意できていたか【参加者への配慮】 ・話しやすい工夫はあったか【参加者への配慮】 ・新たなつながりが生まれたか【ネットワーク構築】
--	--------------------------------	--

<評価ポイント>

- ◆ 支えあいサロンや市民活動センター登録団体数、当事者団体の活動は、数だけではなく、その取り組み内容や満足度を丁寧に分析することで、場の多様性と広がりが期待されます。
- ◆ 参加の場づくりにあたっては、集まりやすい場所なのか、バリアフリー対応をしているか、話しやすい工夫があったかなどを配慮することが必要です。

③地域福祉、地域活動の担い手(リーダーやコーディネーター)の

発掘や支援ができたか

指標例	評価内容	着眼点
担い手の発掘	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> 啓発講座の開催回数、参加者数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> あいあい通信やまちねつとが、市民活動を始めのきっかけとなっているか【情報発信の工夫】 新たな出会い、活動につながった人数【参加者・活動の推移】 新たに立ち上がった団体の活動の種類【テーマの多様性】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> さまざまな人材に働きかけをする広報活動であったか【情報発信の工夫】 定年退職者、現役世代、子育て世代など、対象に合わせた参加しやすい工夫はあったか【時間・場所の配慮】
担い手の育成	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> 市民団体向け、リーダー向けの団体運営講座の開催回数、参加者数 団体連絡会の開催回数、参加団体数 後継者育成のための運営マニュアルがある団体数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> リーダー向けの講座により、参加者のモチベーションが高まったか【活動支援】 担い手になるにあたり、利用しやすいサポートがあったか【活動支援】 リーダーをサポートするメンバーはいるか【活動支援】 リーダーが活動に満足しているか【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に団体の活動が、市民に向けて発信されているか【情報発信の工夫】 新たな助け合い活動が生まれているか【ネットワーク構築】

活動支援	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金の交付（市民活動助成など）団体数 ・貸し出し部屋の利用者数、利用団体数 ・貸し出し機材の利用者数、利用団体数 ・広報紙への情報掲載団体数 ・市民団体からの相談件数 ・団体自身を自己評価する仕組みが整っている団体数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・あいあい通信や社協ホームページ、まちねっとの情報発信により、集まった参加者やメンバーの数【情報発信の工夫】 ・団体が主体的に関わる活動となっているか【活動支援】 ・団体が掲げた目標を、どれだけ実現できたか【活動支援】 ・活動支援への団体の満足度【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・団体が必要とする活動場所や助成金などの情報を集める工夫はあったか【情報発信の工夫】 ・支援内容が伝わるような情報発信の工夫がされていたか【情報発信の工夫】 ・団体同士が学び合う機会を作れたか【ネットワーク構築】 ・アンケートの内容が次の機会に活かしているか【ニーズ把握】 ・地域福祉コーディネーターの活動により、立ち上がった団体やイベントはあったか【活動支援】

<評価ポイント>

- ◆新たな人材発掘につながる講座の開催や情報の受発信が求められます。
- ◆地域福祉活動に関心のある人の発掘・育成には、その人の自主性を尊重するとともに、既存の活動を充実させ、活躍の場づくりをすすめることが必要となります。
- ◆地域福祉活動の担い手の広がりには、グループリーダーや、人と活動をつなげるコーディネーターの存在が重要です。

④地域住民と関係機関の連携・協働は進んだか

指標例	評価内容	量的評価
連携協働の取り組み	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク会議の開催数、種類の数 ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターに寄せられた相談件数
	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・当事者以外の地域住民が関係機関に相談をつないだ件数【ネットワーク構築】 ・複数の団体が一緒に活動し、問題解決や目的に取り組んだ件数【ネットワーク構築】 ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターと住民が解決に向けて取り組んだ件数【ネットワーク構築】【活動支援】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターの利用方法の周知はされているか【情報発信の工夫】 ・関係機関と住民がケースを共有する機会があったか【ネットワーク構築】 ・住民が参加して、地域課題解決のために検討することができる工夫があったか【活動支援】
連携協働を支える仕組み	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターの配置人数 ・あいあい通信やまちねっとの発行部数 ・団体連絡会（市民活動センター登録団体や支えあいサロン）の開催回数 ・関係機関による地域活動への支援数（企業や社会福祉法人の社会貢献活動など） ・協働のまちづくり補助金の利用団体数

	質的評価 (満足度調査)	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくり補助金の新規応募団体数【参加者・活動の推移】 ・連携している団体同士は、対等な関係性を担保されたか【ネットワーク構築】 ・関係機関や団体同士が協働の意義を感じているか【満足度】 ・助成金制度など、支援体制の見直しが常にできているか【活動支援】 ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターへのスキルアップ支援は行ったか【活動支援】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関向けに、連携や協働を促す研修機会があったか【活動支援】 ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターによる新たなニーズ提案の機会があったか【活動支援】
企業の社会貢献活動	量的評価	<ul style="list-style-type: none"> ・企業からの相談数 ・活動に取り組んだ企業の活動数
	質的評価 (満足度調査)	<p><企業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに活動を始めた企業数【参加者・活動の推移】 ・活動の継続年数【参加者・活動の推移】 ・活動に取り組む前後の変化【満足度】 ・企業が地域住民や関係団体と協働して取り組むことができたか【ネットワーク構築】 <p><企業と一緒に活動する団体、施設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業と協働する意義を感じているか【満足度】
	プロセス評価 (工夫や実際の取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターによる社会貢献活動が広がるための工夫はあったか【活動支援】

<評価ポイント>

- ◆フォーマル、インフォーマルな資源の活用あるいは開拓をすることが重要となります。
- ◆ネットワーク・連絡会などは、地域住民も参加できる組織であることが期待されます。
- ◆複数の団体・機関が各々の役割を發揮して共に活動に取り組めたのかを測る視点が必要となります。

- ◆ ボランティア・市民活動支援には、助成事業などの充実による運営基盤の安定化が求められます。
- ◆ 地域住民と関係機関の連携・協働の橋渡し役となる市民活動センターや地域福祉コーディネーター、生活支援コーディネーターの体制整備が求められます。
- ◆ 企業の活動については、やってあげる-してもらおうという関係ではなく、互いに Win-Win の関係づくりを目指す取り組みが求められます。

項目別評価表例

①地域に参加する人の裾野が広がったか

	プラン	量的目標	量的評価		質的評価	プロセス評価	課題・問題点	今後の方向性
			実績	4段階評価				
1	市民活動運営講座の開催	参加者数:100名	40名	C	参加者アンケートの結果では、満足度90%以上が8割と好評であった。	参加者の少なさという点では、団体のニーズ調査が不十分であった。	広報の不足と多くの団体が必要とするテーマ選定が必要。	団体のニーズを日頃の相談から分析し、テーマ選定を行いたい。

②多様な人が集まることのできる場が創出されたか

1	支えあいサロン活動の推進	サロン登録数:150ヶ所	180ヶ所	A	6生活圏域それぞれで、サロン数が増えただけでなく、活動分野についても高齢者だけでなく充実した。	住民からの相談を受け、その人に合わせた支援を行いながら団体を立ち上げることができた。	サロン自体の周知が不足しており、参加したい人が参加できていない。	サロンの一覧を作るなど、関係機関等も使うことができるようなツールを作成したい。
---	--------------	--------------	-------	---	---	--	----------------------------------	---

③地域福祉、地域活動の担い手(リーダーやコーディネーター)の発掘や支援ができたか

1	ボランティア活動推進連絡会	開催回数:1回	未実施	D	他社協が行っているボランティアに関わる取り組みの調査を行ったが、連絡会の開催には至らなかった。	施設担当者との情報交換会を開催し、ボランティアの裾野を広げる手段検討を行った。	施設向けのボランティア受け入れ講座や、これからボランティアをやりたい人向けの講座など、ターゲットを絞った講座を検討していく必要がある。	ボランティアをしてみたい人の入門講座や啓発講座を開催していきたい。
---	---------------	---------	-----	---	---	---	---	-----------------------------------

④地域住民と関係機関の連携・協働は進んだか

1	市民活動に関する相談受付・コーディネート	1,000件	700件	B	目標値には届かなかったものの、相談の中から課題解決にむけて、新たなネットワークがうまれた。	自治会連合会や民生委員・児童委員の会合に参加し、事業の周知を図った。	関係機関からの相談が多く、つながりの薄い、現役世代や子育て世帯からの相談が少ない。それぞれに合った情報発信や事業を検討していく必要がある。	対象別ヒアリングなどを行い、ニーズや情報発信について調査を行いたい。
---	----------------------	--------	------	---	---	------------------------------------	---	------------------------------------

5 参考資料

■委員会の開催

本委員会は、地域福祉の推進を図ることを目的として、立川市が策定した「立川市第3次地域福祉計画」及び立川市社会福祉協議会が策定した「第4次立川あいあいプラン21」の進捗状況に関する検証・評価や、地域の福祉課題に関する検討を行いました。そのため、立川市地域福祉推進委員会と第4次立川あいあいプラン21推進検討委員会は、合同で開催しており、委員は兼任です。

回数	日程	主な協議内容
1	平成28年 1月20日	・「立川市第3次地域福祉計画」及び「第4次立川あいあいプラン21」について
2	平成28年 3月18日	・「地域福祉ウォッチャー調査」の結果報告 ・前計画の実績報告
3	平成28年 5月31日	・「地域福祉ウォッチャー調査」（記述回答） ・計画進捗状況及び地域福祉コーディネーターの活動について
4	平成28年 11月7日	・地域福祉ウォッチャー調査の実施、計画の評価と指標について
5	平成29年 2月7日	・地域福祉ウォッチャー調査結果（中間報告） ・作業部会の報告 ・計画の評価と指標について
6	平成29年 6月20日	・地域福祉ウォッチャー調査結果 ・各計画の進捗報告 ・計画の評価と指標について
7	平成29年 10月31日	・地域福祉ウォッチャー調査の実施 ・地域福祉推進の指標項目について
8	平成30年 3月27日	・地域福祉ウォッチャー調査結果 ・地域福祉推進のための指標づくり報告書（案）について ・策定委員会つなげたいこと

■作業部会の開催

作業部会を設置し、計画の評価について検討を行いました。

回数	日程	主な協議内容
1	平成 28 年 7 月 12 日	・「立川市第 3 次地域福祉計画」及び「第 4 次立川あいあいプラン 21」について
2	平成 28 年 12 月 20 日	・地域福祉推進の評価について
3	平成 29 年 1 月 24 日	・地域福祉推進の評価について
4	平成 29 年 4 月 7 日	・地域福祉推進の評価について
5	平成 29 年 7 月 25 日	・立川市の人口ビジョン及び将来の地域福祉計画について ・地域福祉推進の評価について
6	平成 29 年 9 月 26 日	・地域福祉推進の指標項目について
7	平成 29 年 12 月 22 日	・地域福祉推進の指標項目について
8	平成 30 年 2 月 6 日	・地域福祉推進の指標項目について ・地域福祉推進のための指標づくり報告書（案）について

立川市地域福祉推進委員会
第4次立川あいあいプラン21推進検討委員会 委員名簿

＜順不同・敬称略＞

氏名	団体名	選出区分
森本 佳樹	立教大学コミュニティ福祉学部	学識経験者
河合 晴夫	立川市老人福祉施設会	関係機関
小平 真弓	立川市福祉保健部生活福祉課	
山城 実央	立川市社会福祉協議会地域福祉推進課	
守重 芳樹	立川市自治会連合会	関係団体
山川 清隆	立川市民生委員・児童委員協議会	
大石 幸治	NPO 法人自立生活センター・立川	
古賀 和香子	認定 NPO 法人育て上げネット	
野々 久美子	障がいのある人もない人も暮らしやすい立川を考 える会	
山中 ゆう子	子育て・いれかわりたちかわり実行委員会	
新井 明子		市民
井上 英徳		市民
尾上 哲		市民
水野 理沙		市民
宮本 直樹		市民